

・深度9.58～9.59mの「砂混じり粘土状破砕部(Hc-1)」と記載の箇所については、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度9.59～10.50mの「礫質粘土状破砕部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破砕部性状の記事

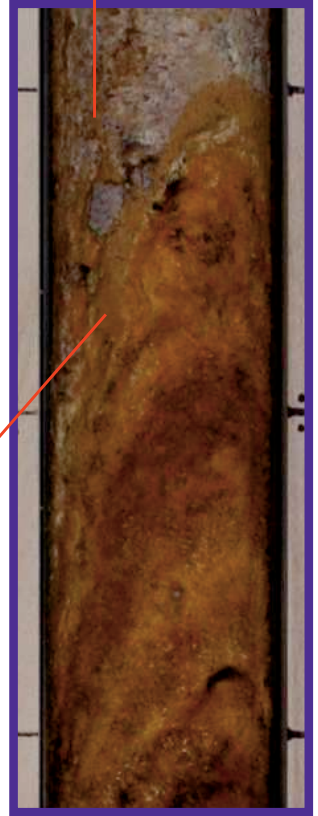
●9.58～14.36m:破砕部(K断層)
 9.58～9.59m:砂混じり粘土状破砕部(Hc-1)
 傾斜75°。含水多く軟質。粘土化がすすみ
 塑性の変形をする。明黄褐色を呈する。幅5～
 10mm。
 9.59～10.50m:礫質粘土状破砕部(Hb)
 上端75°、下端20°でいずれも直線的。灰
 白色を呈する。10.14～10.21m間にほぼ85°の
 角度で幅5～10mmの砂混じり粘土状破砕部が
 挟在する。Hc-1に相当し明黄褐色を呈する。
 せん断面はない。10.21mに傾斜85°のせん断
 面。
 10.50～13.59m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
 上端20°、下端不明瞭。径20～30mmの岩
 片主体の砂礫状を呈する。10.50mの割れ目を
 境に多少粘土化が弱くなるが大差はない。しか
 し、これ以深粘土化は弱くなり、マサ状の岩盤
 に漸移する。明褐灰～褐灰色を呈する。
 13.59～13.77m:礫質粘土状破砕部(Hb)
 上端不明瞭、下端不明瞭。明褐灰色を呈す
 る。13.59～13.67m間は石英粒が多いが軟質な
 粘土で充填されている。13.72mに幅3mm程の
 軟質粘土(45°、明黄褐色)挟み、その上下も
 強く粘土化している。
 13.77～14.36m:粘土混じり礫状破砕部(Hj)
 上端不明瞭、下端20°。明褐灰色を呈する。

コア写真



凡例
 断層ガウジ ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

深度9.58～9.59mの連続性及び直線性が良い粘土



細粒部が網目状に分布する

青粋部拡大

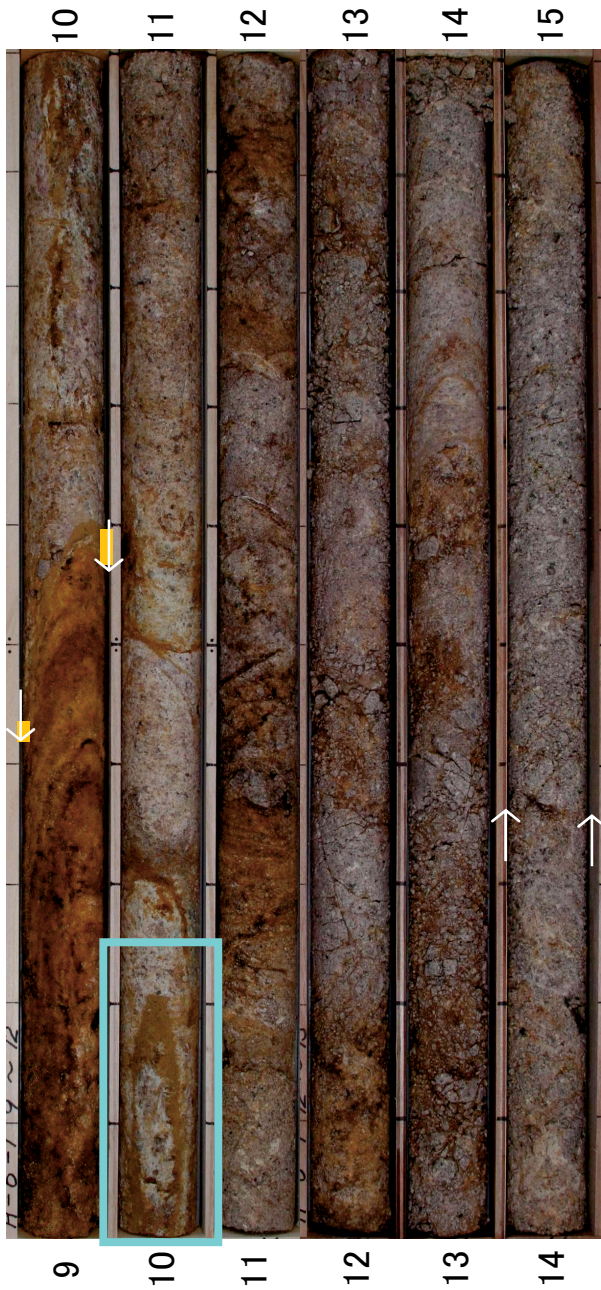
・深度10.14～10.21mの「砂混じり粘土状破砕部(Hc-1に相当)」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、細粒部の幅が膨縮し直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

・深度10.50～13.59mの「粘土混じり礫状破砕部(Hj)」と記載の箇所については、硬質～やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破砕部性状の記事

- 9.58～14.36m: 破砕部(K断層)
9.58～9.59m: 砂混じり粘土状破砕部(Hc-1) 傾斜75°。含水多く軟質。粘土化がすすみ塑性的変形をする。明黄褐色を呈する。幅5～10mm。
- 9.59～10.50m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端75°、下端20°、いずれも直線的。灰白色を呈する。10.14～10.21m間にほぼ85°の角度で幅5～10mmの砂混じり粘土状破砕部が挟在する。Hc-1に相当し明黄褐色を呈する。せん断面はない。10.21mに傾斜85°のせん断面。
- 10.50～13.59m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端20°、下端不明瞭。径20～30mmの岩片主体の砂礫状を呈する。10.50mの割れ目を境に多少粘土化が弱くなるが大差はない。しかし、これに深粘土化は弱くなり、マサ状の岩盤に漸移する。明褐灰～褐灰色を呈する。
- 13.59～13.77m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端不明瞭、下端不明瞭。明褐灰色を呈する。13.59～13.67m間は石英粒が多いが軟質な粘土で充填されている。13.72mに幅3mm程度の軟質粘土(45°、明黄褐色)挟み、その上下も強く粘土化している。
- 13.77～14.36m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端不明瞭、下端20°。明褐灰色を呈する。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲*
 ※: 写真上は白色で記載

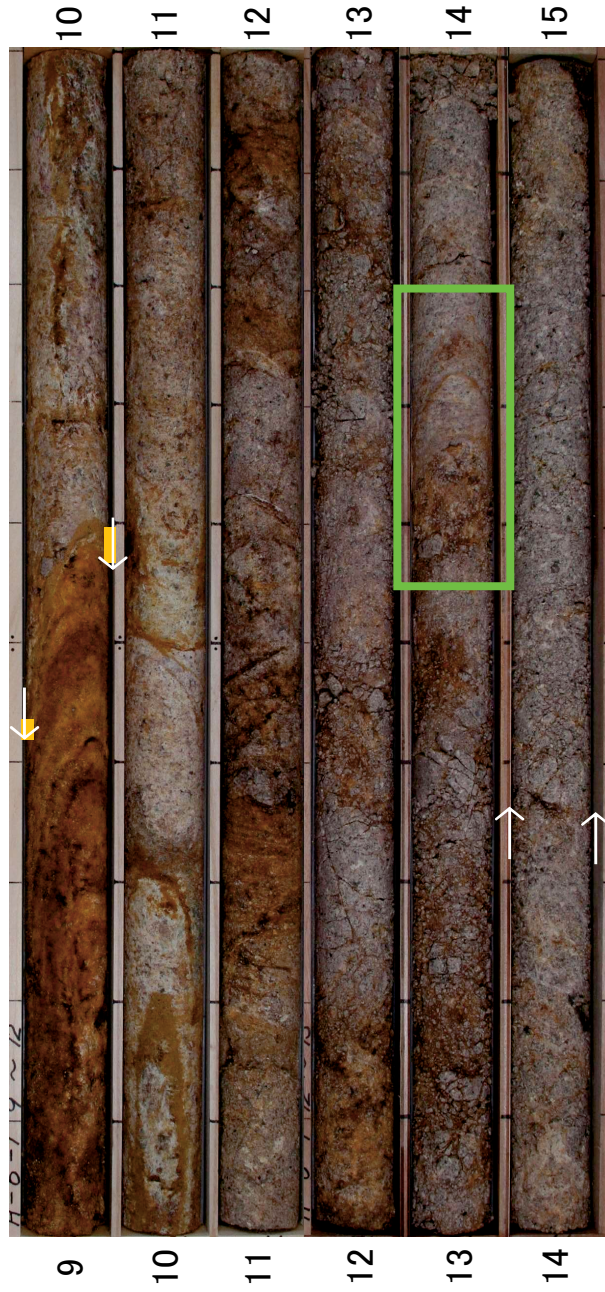


水色粒部拡大

・深度13.59～13.77mの「礫質粘土状破砕部(Hb)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度13.72mの「粘土(45°, 明黄褐色)」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、細粒部の幅が膨縮し連続性及び直線性に乏しい。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

コア写真



凡例
 断層ガウジ ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

連続性及び直線性に乏しい粘土



緑砕部拡大

破砕部性状の記事

- 9.58～14.36m: 破砕部(K断層)
 9.58～9.59m: 砂混じり粘土状破砕部(Hc-1) 傾斜75°。含水多く軟質。粘土化がすすみ塑性的変形をする。明黄褐色を呈する。幅5～10mm。
 9.59～10.50m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端75°, 下端20°でいずれも直線的。灰白色を呈する。10.14～10.21m間にほぼ85°の角度で幅5～10mmの砂混じり粘土状破砕部が挟在する。Hc-1に相当し明黄褐色を呈する。せん断面はない。10.21mに傾斜85°のせん断面。
 10.50～13.59m: 粘土混じり礫状破砕部(Hi) 上端20°, 下端不明瞭。径20～30mmの岩片主体の砂礫状を呈する。10.50mの割れ目を境に多少粘土化が弱くなるが大差はない。しかし、これ以深粘土化は弱くなり、マサ状の岩盤に漸移する。明褐灰～褐灰色を呈する。
 13.59～13.77m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端不明瞭, 下端不明瞭。明褐灰色を呈する。13.59～13.67m間は石英粒が多いが軟質な粘土で充填されている。13.72mに幅3mm程の軟質粘土(45°, 明黄褐色)挟み, その上下も強く粘土化している。
 13.77～14.36m: 粘土混じり礫状破砕部(Hi) 上端不明瞭, 下端20°。明褐灰色を呈する。



・深度13.77～14.36mの「粘土混じり礫状破砕部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質～やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破砕部性状の記事

- 9.58～14.36m: 破砕部(K断層)
9.58～9.59m: 砂混じり粘土状破砕部(Hc-1) 傾斜75°。含水多く軟質。粘土化がすすみ塑性的変形をする。明黄褐色を呈する。幅5～10mm。
9.59～10.50m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端75°、下端20°でいずれも直線的。灰白色を呈する。10.14～10.21m間にほぼ85°の角度で幅5～10mmの砂混じり粘土状破砕部が挟在する。Hc-1に相当し明黄褐色を呈する。せん断面はない。10.21mに傾斜85°のせん断面。
10.50～13.59m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端20°、下端不明瞭。径20～30mmの岩片主体の砂礫状を呈する。10.50mの割れ目を境に多少粘土化が弱くなるが大差はない。しかし、これ以深粘土化は弱くなり、マサ状の岩盤に漸移する。明褐灰～褐灰色を呈する。
13.59～13.77m: 礫質粘土状破砕部(Hb) 上端不明瞭、下端不明瞭。明褐灰色を呈する。13.59～13.67m間は石英粒が多いが軟質な粘土で充填されている。13.72mに幅3mm程の軟質粘土(45°、明黄褐色)挟み、その上下も強く粘土化している。
13.77～14.36m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj) 上端不明瞭、下端20°。明褐灰色を呈する。

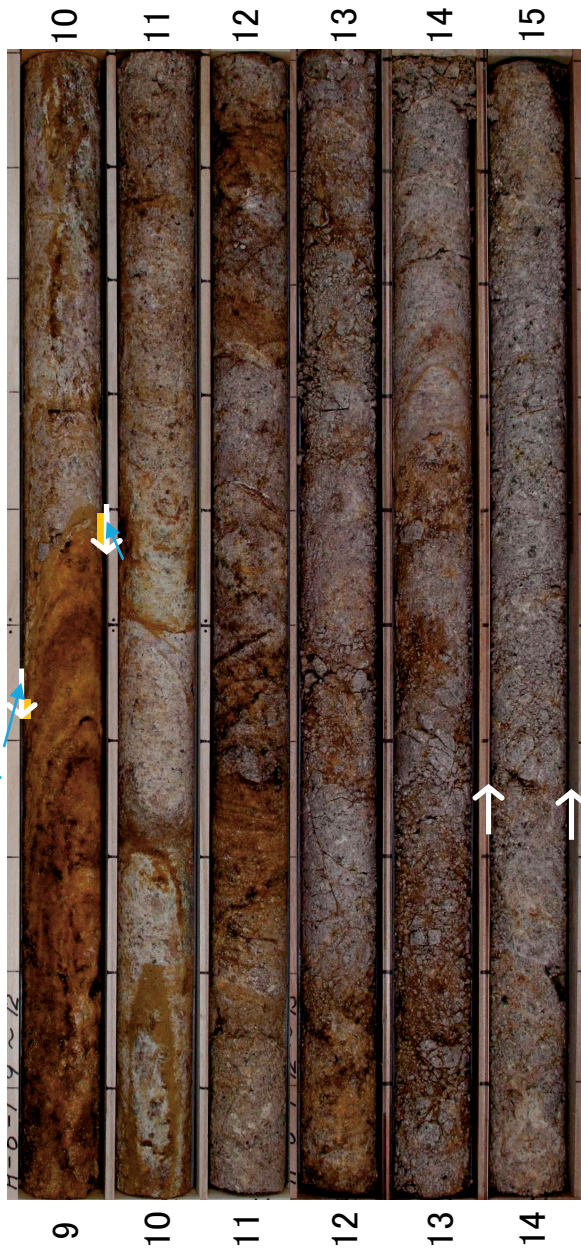
コア写真



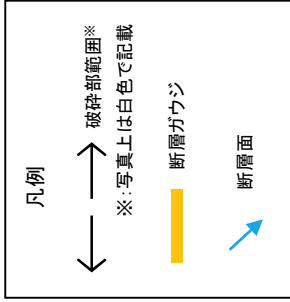
凡例
 断層ガウジ
 ← 破砕部範囲※
 → 写真は白色で記載
 ※:写真は白色で記載

・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

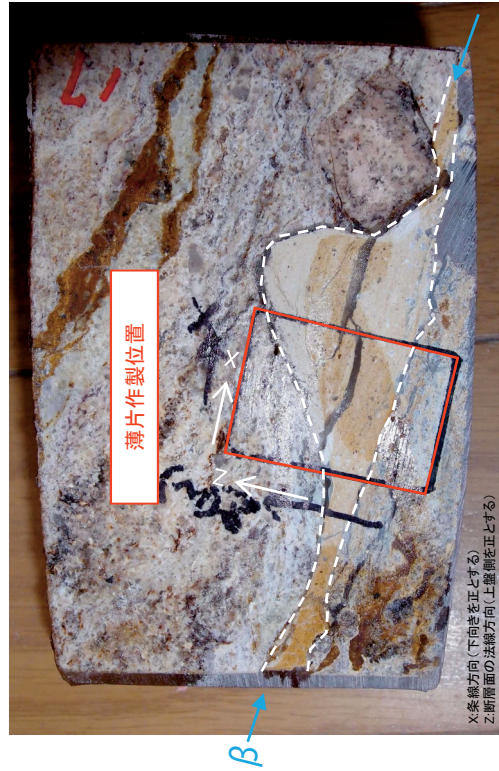
コア写真



※断層面βは最新活動面



薄片作製位置写真

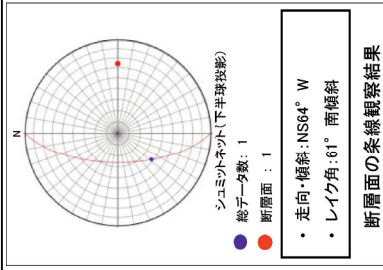


X:糸鋸方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)

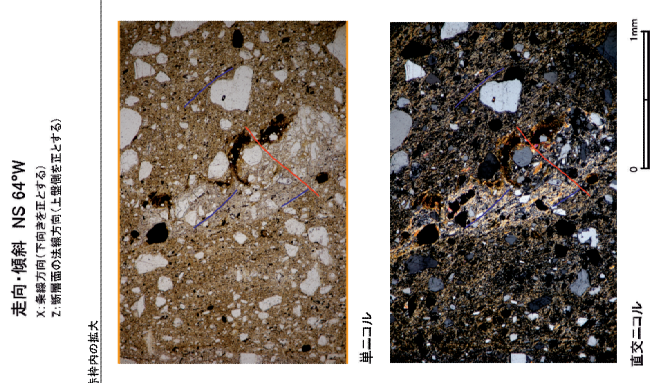
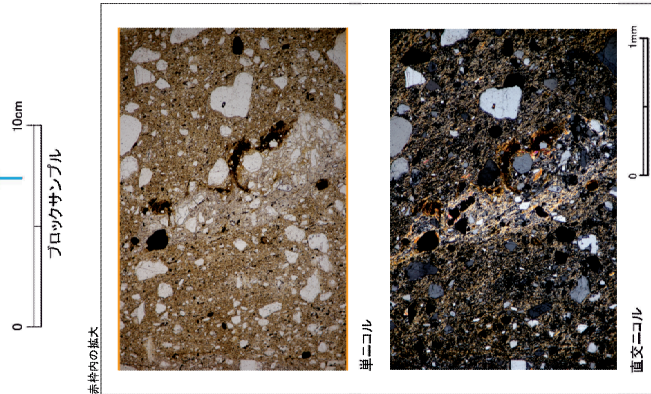
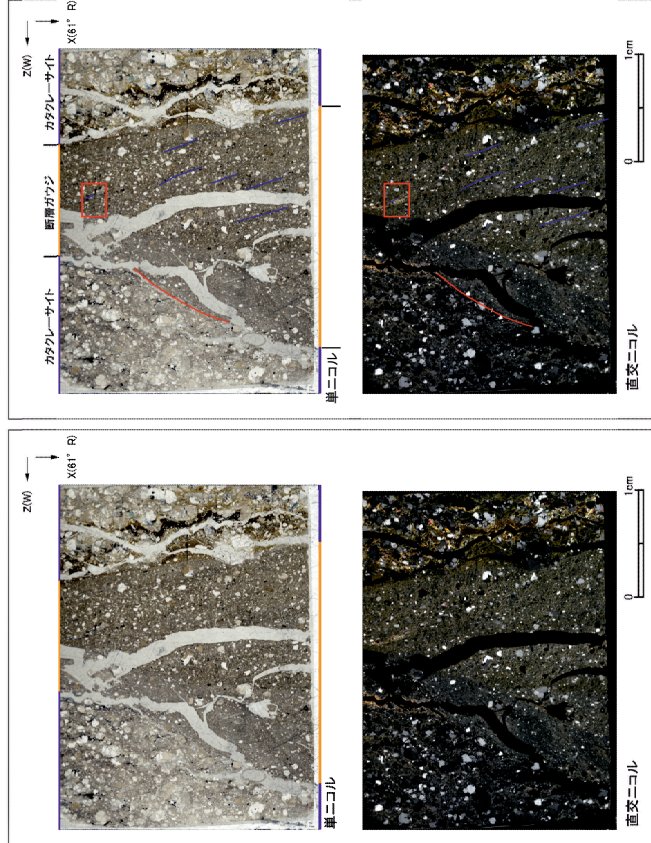
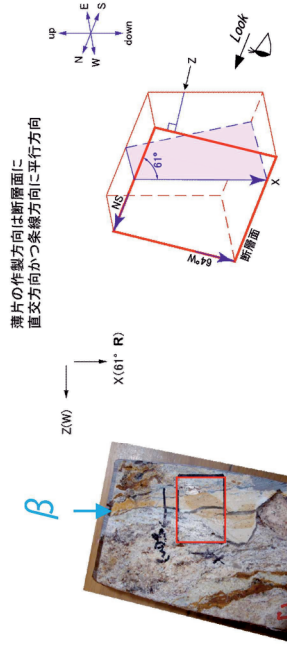
薄片全景写真(単ニコル)



- ・H24-H-6-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、逆断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



※断層面βは最新活動面



走向・傾斜 NS 64°W
 X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)